

# 日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

# 普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年5月22日

元気が出る  
みんなの  
取り組みを  
ご紹介

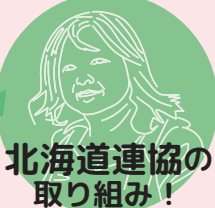
## 楽しく普及拡大

## 北海道・東北の取り組みを紹介します！

子ども、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

さあ！  
ほいく誌購読の輪を広げよう！  
仲間を増やそう！

ニュース「どさんこ版よかたいNews」を発行。放課後児童支援員認定資格研修会場で見本誌を展示し、希望者に配布。オンラインで読み聞かせ会を企画！



北海道連協の取り組み！

2023年5月号、2022年10月号など、執筆で多くの保護者が活躍。まずは「指導員の全員購読」が毎年の目標！指導員会の月例研修でほいく誌の読み合わせを実施しているブロックも！



札幌市連協の取り組み！



山形県連協の取り組み！

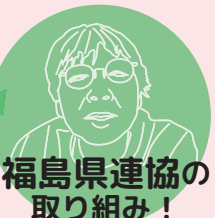
年に2回、普及拡大担当者会議を開催！モニター担当会議を初開催。読み合わせ会「カフェHOIKUSHI ごぞ〜れ」も毎月開催！



岩手県連協の取り組み！

2023年度から役員会内の組織として新たに「ほいく誌部」を立ち上げ！5段階の活動方針を掲げ、段階的にすすめていきます。モニター・子どもの絵や作文を投稿し、誌面づくりに参加します。

「ほいく誌部会」として、奇数月の第2金曜日に、「読者会」or「読者会+しゃべり場」をリモートで開催。「ほいく誌」を真ん中にして、参加者のその時々思いを出しあいながら交流しています！



福島県連協の取り組み！

職場以外の人とも話してみたい、そんな思いで仙台市の有志が月1回の読書会を始めた。趣旨に賛同する県内市町村が管内の施設に案内して、面識のなかった指導員同士のつながりが生まれています！



宮城県連協の取り組み！



青森県の取り組み！

東北各県の活動を参考にしながら、長らく準備会として活動してきました。県連協設立に向けて、ほいく誌の活用も含めてなにができるか検討中！

## 日本の学童ほいく4月号

## 特集 4月 新しい出会い 学童保育

4月、新たな出会いの季節です。今月号では、3月から4月にかけての学童保育・家庭での様子を交流することを通じて、「毎日の生活の場」である学童保育の役割、日々の生活のなかで大切にしたいことをたしかめあいます。



# 日本の学童ほいく

みんなで読もう目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

# 普及拡大 ニュース

2024年5月22日

## 読者の声

### 岩手県大船渡市 ● 保護者から

三月、四月は、大人の私でも、周囲がセカセカと忙しそうにしているので、とても苦手な時期です。「自分もなにかしなくては」とあせってしまいます。春の香りは、小学生の頃の新生活を思い出すので苦手です。ですから子どもには、「新生活がはじまる!!」という雰囲気を出さないように心がけています。「明日から○年生になるんだから、がんばってね」などと言いません。「教室、まちがえないでよ～」くらいの、冗談交じりの「いってらっしゃい」で送り出すようにしています。

『日本の学童ほいく』2024年4月号  
「読者からの投稿」より

### 滋賀県日野町 ● 保護者から

わが家には、小学二年生の娘がいます。「玉子焼きつくりたい〜!」と言うことがあって、卵を冷蔵庫から出してあげたり、油を敷いてあげたり、IHクッキングヒーターをつけたりと、なにかしらちょこちょこ手伝っていましたが、ついに娘一人で玉子焼きをつくるようになりました。娘はとってもうれしそうで、「なにも手伝ってもらわずに、しかもキレイにできたよ」とニコニコでした。「味はどう? どう?」と気になる様子。「とってもおいしい」と言うと、「またつくってあげるね!!」と、とってもうれしそうでした。また違うものにもチャレンジして、身につけていってほしいです。

『日本の学童ほいく』2024年4月号「読者のひろば」より

およそ10年前、子育てが一段落した夏休みに補助員として学童保育で勤務を始めました。この学童保育では、学習時間やお弁当の時間は「おしゃべり禁止」でした。子どもたちはしーんとしたなかで学習したりお弁当を食べたりしています。学童保育とはじめて出会った私は、「学童保育とはこのようなところなのか」と思ったのと同時に、楽しさが半減だと思ったのを覚えています。

その後、指導員として別の学童保育で勤務するようになりました。新しい学童保育はのびのびとして笑い声が絶えず、何でも言いあえる雰囲気で、「こんなに違うのか」と驚きました。翌年には別の学童保育に異動。その先輩指導員さんは『日本の学童ほいく』で紹介されている仕事を夏休みの計画に取り入れたり、子どもにクイズを出し、答えを送って図書カードをもらったりして、子どもと楽しんでいました。また、私にも「この記事良かったよ」とすすめてくれ、付箋がいっぱいついた『日本の学童ほいく』を貸してくれました。他の学童保育の様子を知るのとはとても新鮮で、参考にしたり、うらやましく思ったり、もやもやした気持ちや晴れたりして、私も記事を少しずつ読むようになりました。すると、継続して読むことで、気持ちに変化があったのです。他の学童保育の様子や指導員さんの思いを知ること、心に余裕ができ、ゆとりを持って子どもとかかわれるようになりました。そのおかげで子どもたちと良好な関係が築けています。

いまでは、私がみんなに『日本の学童ほいく』を紹介したり、学習会で活用したりしています。全国各地の学童保育の様子や取り組み、制度や研修会の情報、子どもと楽しめるコーナーなどたくさん内容がぎゅっと詰まっています。ハンドブックサイズでいつでも手元に置き、持ち歩けるのもおすすめです!

私と「ほいく誌」

読者リレー執筆・福岡県北九州市から  
大里柳 Y・Y 児童クラブ・指導員の 鮫島まゆみさん